

RCB1ID.EXE の使用方法

KHR-1 では、2 枚の RCB-1 をリンクさせて使用します。このリンクさせて使用する際には、外見が同じ 2 枚の基板が、合わせて 1 つの動作をするために、それぞれの基板が、固有の ID 番号を持つことが必要です。リンクさせて使用する基板の ID 番号は、異なっている必要があります。出荷時には、ID0 と ID1 がそれぞれ設定してあり、基板上のシールで区別できますが、ID 番号を変更したい場合には、ID の再設定を行うためのソフトウェアとして「RCB1ID.EXE」が用意されています。

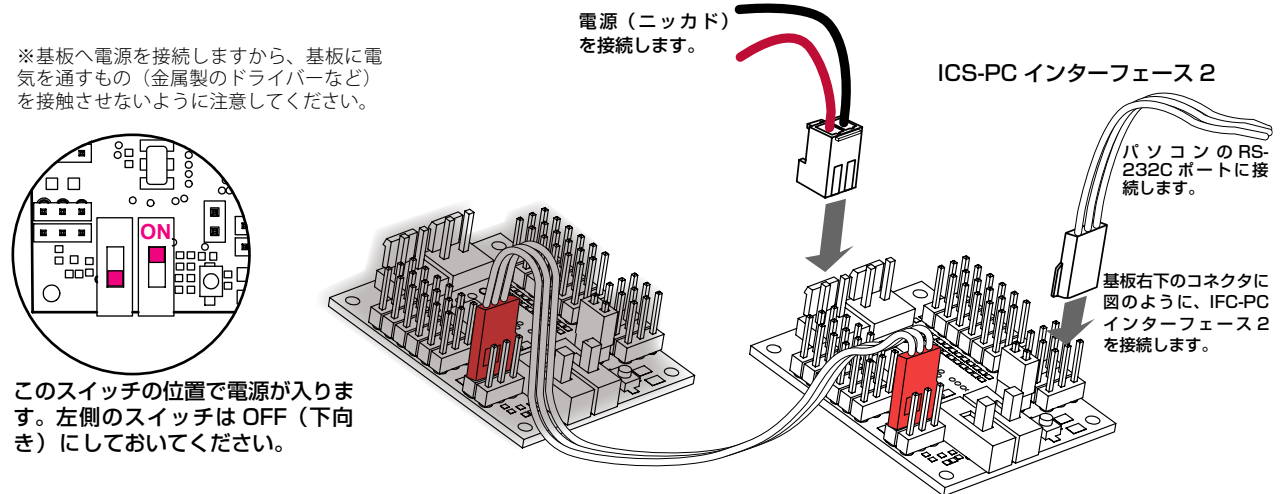
ソフトウェアの使用方法

ソフトウェアは、付属 CD-ROM の Software フォルダに収録されています。使用する場合には、お使いのパーソナルコンピュータ（Windows2000、Xp）のハードディスクにコピーしてください。コピーしたファイル又は、デスクトップ上に作成したショートカットをダブルクリック（お使いのウィンドウズの設定によってはクリック）することでソフトウェアが起動します。

ID 設定を行う際の接続

通常 2 枚の RCB-1 はリンクケーブルで接続されていますが、ID の設定を行う場合には、リンクケーブルを外して、1 枚ずつ、電源と通信ケーブルを接続する必要があります。（赤のリンクケーブルだけはそのまま接続していても OK です。）なお、電源を接続した基板のコネクターや部品には、電気が流れます。他の線や 2 枚の基板が接触したりすると、破損、故障の原因となりますので、取り扱いには注意してください。

基板の接続は下図の様にします。（電源とインターフェースを接続したボードが設定対象です。）



ID の読み込みと書き込み



RCB1ID.EXE を起動すると最初にシリアルポートの設定確認が表示されて OK を押すと左のような、画面が表示されます。まず左下の COM（通信ポート）の番号を設定します。ID を読み取るときは：左の「現在の ID を読み取る」をクリックすると中央の ID に現在去っていられている ID 番号が表示されます。

ID を書き込み場合には、中央の ID を設定する番号に変更してから、右の「指定の ID 書き込む」をクリックします。